

令和3年度 千葉市教育研究会中学校家庭部会 11月授業研究

技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

研究テーマ

生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成
～主体的・対話的で深い学びを通して～

研究の視点

- ・家庭分野における持続可能な社会のとらえ方
- ・話し合いの工夫
- ・課題解決学習の取組

題 材 名	B 衣食住の生活「持続可能な食生活」
日 時	令和3年11月16日(火)
授業展開	14:00～14:50
協 議 会	15:00～16:30
展開学級	2年8組
展開場所	2年8組教室

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時 令和3年11月16日（火）5校時

1 題材名

B 衣食住の生活「持続可能な食生活」

2 題材について

【題材観】

現在の日本の食品ロスは年間約 646 万 t になり、世界の飢餓に苦しむ人々に向けた食料援助量（約 320 万 t）を大きく上回っている。農林水産省の試算によれば、わたしたちは毎日一人当たりご飯茶碗 1 杯分（約 136 g）の食品を捨てている換算になる。

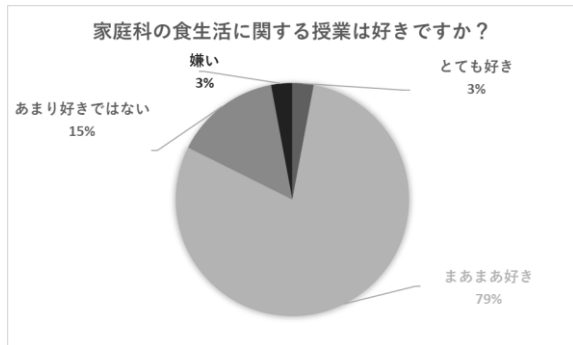
しかし、現在の日本の食をとりまく環境は、多くの食品ロスを生んでいるのに関わらず、食料自給率は約 40%と主要先進国の中でも最低水準であり、洋食だけではなく和食も多くの食材が輸入したものが多くなっている。その中で輸入食品についての環境への影響が注目され、フードマイレージとして算出されるようになり注目されるようになった。このような中で、中学生が持続可能な食生活のあり方を学び、身に付けることは、生活の自立のため、生涯にわたって健康な生活を送るためにも大切なことである。本題材では、身に付けた知識や技能を生かし、よりよい食生活を工夫していく意識や能力を身に付けた生徒を育てたいと考え、この題材を設定した。

食生活分野については、日本の食料自給率と輸入食品における環境負荷を理解させ、私たちが地産地消に取り組むことで環境に配慮した食生活になることを意識させたい。また農業生産高全国3位である千葉県の生産物に関心を持ち、生産地の表示を見て食品を購入することの大切さも理解させたい。

【生徒観】

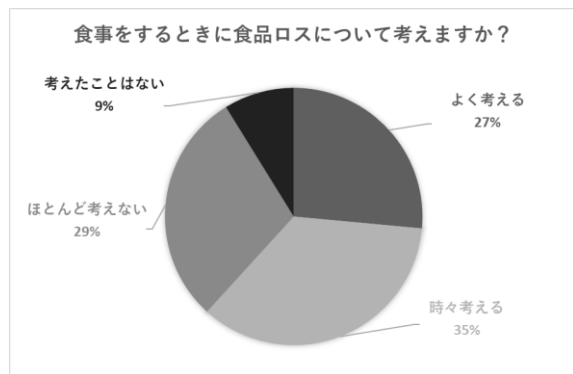
アンケートの結果から、家庭科の食生活の分野が好きと前向きな回答を示した生徒が8割を越えていて食生活に関心が高いことがわかる。ただ、日々の給食の様子を見ていると、食品ロスやもったいないという感情よりも、おいしくないから嫌いだからと言って食事を残す生徒が多い。クラスの半数は食品ロスのことを気にかけている生徒もいることがわかる。学級の実態から、産地、食品ロスといった環境負荷を理解させ、私たちが地産地消に取り組むことで環境に配慮した食生活に関する学習が必要であることが明らかになった。

家庭科事前学習調査アンケートの結果



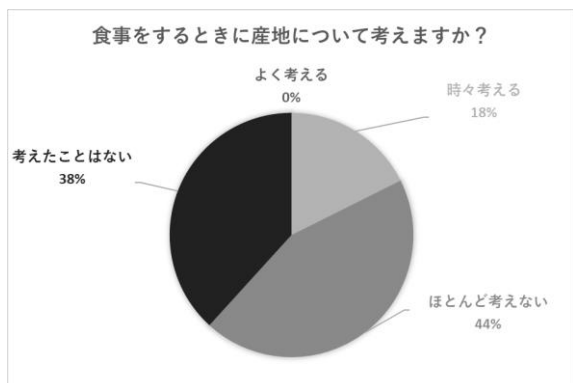
1 家庭科の食生活に関する授業は好きですか？

①とても好き	3%	(1人)
②まあまあ好き	79%	(27人)
③あまり好きではない	15%	(5人)
④嫌い	3%	(1人)



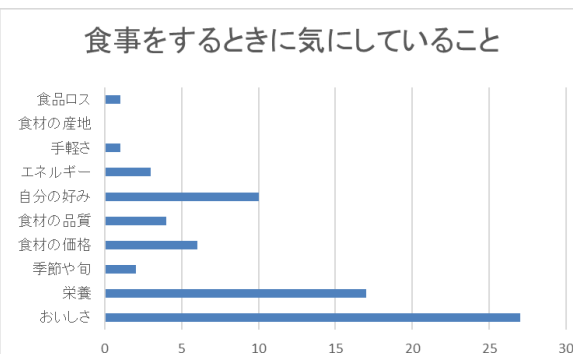
2 食事をするときに食品ロスについて考えますか？

①よく考える	27%	(9人)
②時々考える	35%	(12人)
③ほとんど考えない	29%	(10人)
④考えたことはない	9%	(3人)



3 食事をするときに産地について考えますか？

①よく考える	0%	(0人)
②時々考える	18%	(6人)
③ほとんど考えない	44%	(15人)
④考えたことはない	38%	(13人)



4 食事をするときに気をつけていることはなんですか？（2つ選びなさい）

おいしさ	27人	自分の好み	10人
栄養	17人	エネルギー	3人
季節や旬	2人	手軽さ	1人
食材の価格	6人	食材の産地	0人
食材の品質	4人	食品ロス	1人

[指導観]

本題材では、持続可能な食生活ということで食品ロス、食料自給率、フードマイレージについて扱うこととする。生徒は食生活の学習に対する意欲があり、食品ロス等の環境とのつながりを考えることのできる生徒もいるが大多数は環境と食生活を結びつけることができている。そこで本時の学習を通して、食品ロス、食料自給率、フードマイレージについて学ぶ中で、持続可能な食生活のために自分自身の行動を考えられるような実践力を身に付けさせたい。前時で学習した食品の選択と保存と絡めることで、より自分たちの普段の生活と結びつけながら考えることができる。

最後に、研究テーマである「生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成～主体的・対話的で深い学びを通して～」を意識し、学習活動の中に、自分で調べ考える力、対話の中で学びをより深められるようにする。生活と環境との関わりを考えさせ、環境に配慮し、持続可能な社会に向けた、ライフスタイルの実現を目指す生徒が育つようにコミュニケーション活動を通して指導をしていきたい。コミュニケーション活動の中では、自分の考えを伝え他者の考えを共有させ、深い学びへとつなげることによって、生活をより良くしようとしたりする能力と態度を育てていきたい。

3 題材の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
日本の輸入食品の環境負荷について理解する。	持続可能な食生活について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	持続可能な食生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本の輸入食品の環境負荷について理解している。	持続可能な食生活について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	持続可能な食生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

5 指導計画 (第2学年 2時間)

	学習活動	評価規準
1	○持続可能な食生活① ・食料自給率、食品ロス、 フードマイレージについて 知ろう。	日本の輸入負荷について理解している。 【知識・技能】 食品ロスを減らすために普段の生活の中でできることを考 えようとしている。 【思考・判断・表現】 食料自給率、食品ロス、フードマイレージの問題に関心をも ち、問題解決することに主体的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
2 (本 時)	○持続可能な食生活② ・持続可能な食生活に向け た実践力を身に付けよう。	持続可能な消費生活に向けた取り組みに対して、どのように 行動するか考えようとしている。 【思考・判断・表現】 持続可能な消費生活に向けた取り組みに、主体的に取り組も うとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

6 本時の指導

(1) 小題材 「持続可能な食生活②」

(2) 本時の目標

①持続可能な食生活に向けた取組に対して、どのように行動するか考える。

【思考力、判断力、表現力等】

②持続可能な食生活に向けた取組に対して、主体的に取り組んだり、振り返ったりしようとする。

【学びに向かう力、人間性等】

(3) 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	持続可能な消費生活に向け た取組に対して、どのように 行動するか考えている。	持続可能な食生活に向けて、自ら 課題解決するなどして、主体的に取 り組んでいる。

(4) 展開 (2時間扱いの2時間目)

学習過程	時配	学習活動	教師の指導と支援	資料・評価(◆)
課題をつかむ	8	<p>○前時の振りかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロス ・食料自給率 ・フードマイレージ <p>○「N スペ 5min 2030 飽食の悪夢」(4分30秒)</p> <p>○本時の学習内容、学習目標を確認する。</p>	<p>○前時から本時へのつながりをもたせる。</p> <p>○私たちの未来の食生活が今後どうなるかについて考えさせる。</p>	「N スペ 5min 2030 飽食の悪夢」
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">持続可能な食生活を作るためにはどうしたらよいか考えよう。</div>				
追究する	12	<p>○前時の学習を踏まえ、食品ロス、食料自給率の低下、フードマイレージ問題が改善されなかった10年後、20年後の日本の姿を考える。</p> <p>○自分の意見を班で発表する。</p> <p>○友達の見解を聞く。</p> <p>○班の代表が発表する。</p>	<p>○ギガタブを使用して、それぞれの問題をもう一度調べてもよいとする。</p> <p>○グループで自分の意見を言えるようにする。気づいたことはメモして記録する。</p>	
深める	20	<p>○持続可能な食生活のためにできること(自分たち、社会)について考える。</p> <p>○自分の意見を班で発表する。</p> <p>○友達の見解を聞く。</p> <p>○共有した意見をホワイトボードに書いて黒板に貼り全体に共有する。</p> <p>○前に出て代表者が発表する。</p>	<p>○食品ロス、食料自給率、フードマイレージを関連付けて考えさせる。</p> <p>○グループで自分の意見を言えるようにする。気づいたことはメモして記録する。</p>	<p>◆評価方法</p> <p>持続可能な食生活に向けた取組に対して、どのように行動するか考えている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>(授業観察)</p> <p>(学習プリント)</p>

まとめる	10	<p>○本時のまとめをする。</p> <p>・本時の学習を振り返り、持続可能な食生活に向けた取り組みについてどのように考えるか、考えを書く。</p>	<p>○自分の考えを書く。記述できない生徒には感想を書くように促す。</p>	<p>◆評価方法</p> <p>持続可能な食生活に向けて、自ら課題解決するなどして、主体的に取り組んでいる。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>(授業観察)</p> <p>(学習プリント)</p> <p>※意見交換をもとに食生活を考え、最後まで課題解決に向かう姿を評価する。</p>
		<p>持続可能な食生活に向けた取組を考えられたか。</p>		
		<p>○SDG s とのつながりについて知る。</p> <p>○今行われている取組を知る。</p>	<p>○「持続可能な食生活に向けた取組を考えることができたか」について挙手させる。</p> <p>○今回の授業の内容がSDG s のつながりがわかるようにする。</p> <p>○実際に今行われている取組を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫食 ・大豆ミート ・フードバンク 	